



クマにご注意！！



クマは一般的に人に対し警戒心が強い動物といわれています。しかし、最近、里でもたびたびクマが目撃されるようになりました。こうした現象は、狩猟等圧力の減少、森林環境・里地里山の変化、中山間地域の社会変化などからクマが里へ出やすくなり、人間との距離が近くなって、クマが人間へ慣れてしまい、警戒心がなくなってきたためといわれています。こうしたクマとの遭遇を避け、被害を未然に防ぐために次のような心構えが重要です。

1 里を餌場と認識させないための心構え

知らず知らずのうちにクマがあなたの周辺に住み着こうとしているかもしれません。ここはクマの生息できる場所ではないことをはっきりさせるために次の点に注意しましょう。

- ア 人家の周りにクマの餌となりうる生ゴミ等を放置しない。
一般の家では残飯やコンポストをきちんと管理する。廃棄果樹等は適切に処分する。
- イ 人家の周りに収穫しない柿の木などを放置しない。
果樹はクマの格好の餌となるため、クマに利用させないために残さず収穫する。
- ウ ペットフードや家畜の餌を食べていたクマの報告もあるため、ペットフードなどはフードストッカーや納屋などに保管することが望ましい。

2 遇わないようにするための心構え

まずは、あなたの周辺にクマがいるのかどうか知ることが大事です。もし、いたとしてもクマは積極的に人間を襲うことはほとんどありませんので、住み着かないような対策や遇わないようにすることがまず必要です。

1) クマがいるのかどうか調べてみよう。(痕跡を調べる)

- クマの糞：人間と同じかちょっと大きめで形も人間と同じで食べ物によって変化。
- 足 跡：タイトル脇にあるもので左が後ろ足で右が前足。幅は成獣で7～13cm。
- 熊 棚：樹上に折った枝を集めたもので、鳥の巣に似ているが、枯葉がつくことで区別。
- 熊 は ぎ：スギやヒノキの根元から高さ2mぐらいまで樹皮が剥がされた痕跡。(右横写真) 剥がれたことで木が枯れることもある。
樹皮が残り、甘皮部に歯で削いだ痕が残るのが特徴。



2) クマの行動を知り、遇わないようにする。

- ア クマの痕跡や目撃情報がある場所では突然出遭わないよう特に注意して笛や鈴、ラジオ、など音のするものを身につけ、クマに自分の存在を知らせるよう行動し、必要に応じて引き返す勇気をもとう。
- イ クマは夜間や朝夕など、活発に行動するため、夜間黎明薄暮時は注意が必要で、朝早くの農作業等は音のするものを身につけるなどして、注意して作業をする。
- ウ 子グマを見つけたら親グマが近くにいますと考えられるのでそっと立ち去る。
子グマを守ろうと親は攻撃してくるので危険である。

3 出遭ったときに興奮しない、興奮させないために

- ア 遠くにいるのを発見した場合は、あわてずそっと立ち去る。
- イ クマが興奮するので、大声で叫んだり、石や棒切れを投げつけたりしない。
- ウ クマから目を離さないようにして、できるだけゆっくりと後ずさりしながらクマから離れる。クマとの間に立木等の障害物を入れることができる位置に移動することで突進を防ぐこともできる。
- エ 背中を見せて逃げるとクマは本能的に襲ってくるので、走って逃げない。